

【全体概要】

県内中山間地域のブランド米品種である「ミネアサヒ」は稲いもち病が発生し易く、生産安定の支障となっている。そこで、「ミネアサヒ」に稲いもち病抵抗性遺伝子を付与した「中部138号」を用い、良食味米を安定供給することで産地の評価を高め、中山間地域産のブランド米の生産安定を目指す。

新品種・新技術等の概要

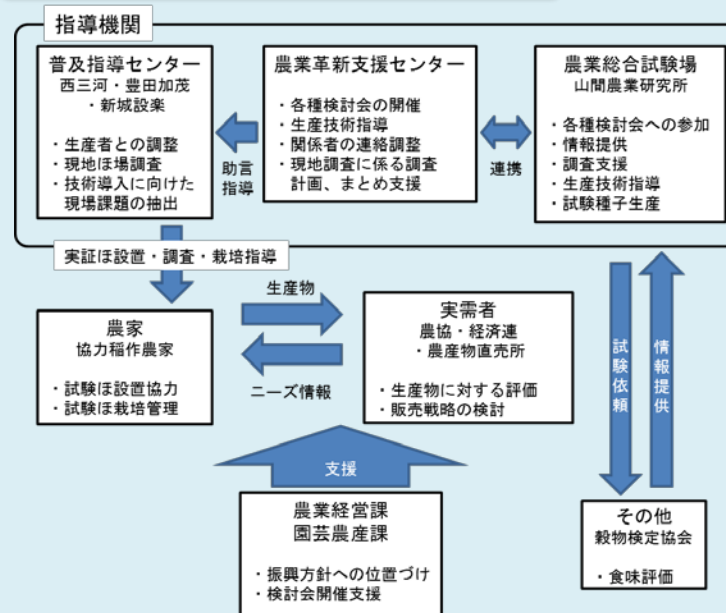
- 「ミネアサヒ」の同質遺伝子系統であり、栽培特性等は同じ。
- 外観品質・食味も「ミネアサヒ」と同等で良好。
- 稲いもち病、稲縞葉枯病に抵抗性を持つ。



主な取組内容

- 県内9地域で、現地展示ほを設置
- 中山間地域に対する現地展示ほ結果の説明
- 栽培技術マニュアル案の作成
- 実需者への聞き取りによる意向調査の実施

実施体制図



・協力稲作農家は実証ほの設置協力と栽培管理を行う。
・農業革新支援専門員は、普及指導センター、試験場と連携し、実証試験への助言や支援を実施。
・普及指導センターは実証ほの調査を行う。
・行政等は振興方針への位置づけ、検討会開催支援を行う。

課題と今後の対応

- 全ての展示ほ場で、稲いもち病薬剤無施用でも「ミネアサヒ」と同等の収量・品質を確保できることを確認した。
- 試験結果を基に、栽培マニュアル案を作成した。
- 普及に向け、地域の研究会等で成果の発表を行う。
- 食味向上に向けた栽培試験を実施する。